

2017
Vol.1

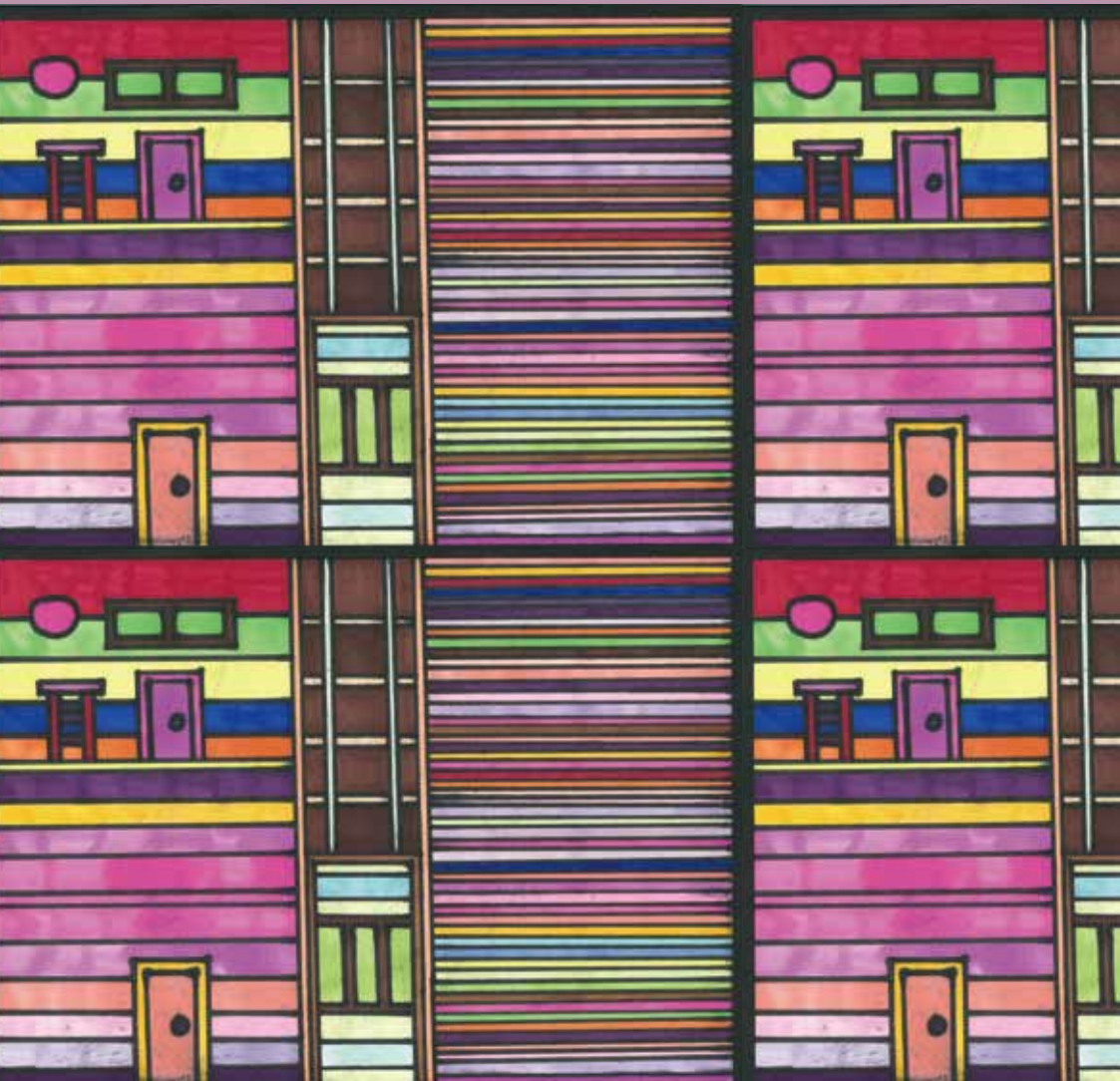
あおはにの風

特集1 「農福連携」地域と共に生きる農福

特集2 日笠ワークス2F 水仙月オープン

OUTLOOK

- 「暮らす・働く・余暇」
- 青葉仁会と宮沢賢治
- Event News





地域と共に生きる農福

農福連携

最近この言葉がよく聞かれるようになった。これはアベノミクスの成長戦略

「日本再興戦略2016」第4次産業改革に向けて「Ⅲ2-3-Ⅲ」障がい者等の活躍推進（前略）障害者については、職場定着支援の強化や、農業分野での障害者の就労支援（農福連携）等を促進する（後略）」という政策における取り組みである。

日本再興戦略

時代は大きく変わるうとしている。変革を恐れず新たな成長の途を目指すのか世界の先行企業の下請け化の途を取るのか。日本は今、歴史的な分岐点にいる。こうした変革の時代を乗り越え、成長軌道に乗せ、日本を世界で最も魅力的な国とする。そのための羅針盤が、日本再興戦略2016である。

【日本再興戦略2016（内閣府）】

平成28年の農林水産省の調査によると、農業

就業人口は192万人、そのうち65歳以上が125万人で全体の65%以上、平均年齢は66.8歳とされている。また、農業従事者人口はこの20年足らず

でほぼ半減している。このような農業人口の減少により、手入れの行き届かない荒廃林が地すべりなどの災害をひきおこしたり、また農村地域の高齢と過疎化のさらなる状況を生みだし、耕作放棄地の増加など負の循環となっている。

普段はあまり気づかないが、飛行機の窓から移りゆく地上の景色や山の頂からふもとの景色を眺めていると、日本の国土における田畑や山林の多さに気が付く。高所からでは、耕作放棄地かどうかまでは識別できないが、森林



が広がる緑の景色と区画された田畑に囲まれて点在する集落に、大地と共に生きる人達の営みが伝わってくる。もし、日本の農業が崩壊してしまったらこの景色はどうなるのだろう。稲作の開始より築いてきた自然との調和こそが、これからもこの国に生きる人達の命の糧を生み出してゆくことに変わりはない。そのことを大切にし、また忘れてはならない。

青葉仁会の本拠地、仙ノ川町は、奈良市の東部の農山村地域にある。昔は東山村と呼ばれていた所だ。ここに知



的障害者入所授産施設「あおはにの家」ができて26年が経った。設立当初から利用者の就労・生産活動は農林業を予定し、そこで最初に取り組んだのはハーブ栽培であった。当時、バジル、オレガノ、ミント等の西洋ハーブが流行する兆しが見え始めた頃で将来が期待された。職員総出で山をならし畑づくりに励んだが、何年経っても植え付け時期さえままならず、ついには数年で消滅してしまった、そんな苦い思い出がある。今ではそのハーブ園は見る影もないが、ハーブ料理を提供する為につくったマルシェ・カフェ「ハーブラブ」がハーブのないままこの地域に根付き繁盛している。それを見ると、元々ハーブはいらなかったのかとも思わずにはいられない。

あれから20年、今では米をはじめとしてサツマイモ、ブルーベリー、お茶、玉ねぎなどを栽培し、レトルトカレー、焼菓子、和紅茶、ジャムやバジルペーストなどの瓶詰等、様々な農産物を加工品として販売している。また、

林業も18ヘクタールの山林を管理し、その材を使ってスプーンやトレイなどのキッチン用品や家具、カヌーなどを障害のある人達が製作し人気商品となっている。

生きものを育てて食物をつくる、木を切り製品をつくるという単純な思いから始めた農林業であったが、その過程で気づかされたことが沢山ある。それは、それぞれの農村地域にはそこで必要なのものがあって、地域の人達は



地産地消の食生活や経済活動の上に生活を築き、その上に地域文化が成り立ってきた。あるいは、開墾し、地の利に合ったものを工夫し、長い年月をかけて創られてきた農業生産を地域文化として形成し、秋祭りなど耕作との相互作用により、人びとの命の糧を供給する食物生産を支えてきたのだという事だ。

そんな農業人口の衰退は、工業生産による高度成長期に農村から地方都市へと、オフィス・ビジネスが中心になるにつれおこっていたが、今後、都市より生活環境を重視する労働価値が人々に求められるようになると、また人の流れは変わるかもしれない。ともあれ、これからも社会現象として、環境を求めて人々は分散と集合を繰り返すことだろう。メディアでは既に若者達の農村村への移住が取り上げられ、「Ｉターン」(都心部で育った人が地方へ移転し定住すること)という言葉も目にするようになった。その時に、移住希望を促進するような魅力ある農村が維

持されているかどうかこれからの課題となる。人が生きる基本的な営み、土を忘れず、人を忘れず、季節を忘れず、他の生命との共生を忘れず、太陽を忘れず、これらの大切さを将来の子供たちの、その子供たちに迄という長い視野に立つ営みとして伝えてゆかねばならない。また食料生産地である地方が崩壊して東京の様な都会だけで存在するはずはないというようなことを、農林地域での活動を通して感じるようになった。

しかし農産人口は始めに述べたような状況にあり、このような地域は少子高齢化ではなく過疎高齢化と言っても過言ではない。そのような中で地方を見た場合、どの地域にも確実な経営主体として全国津々浦々に存在するものがある。それが我々のような社会福祉法人である。特に障がい者施設にあっては、利用者というマンパワーとなる潜在力を有する人たちがいる。障がいのある人達も歴史的に見れば工業生産以前の農村社会において、かなりの



人達が地域での生産役割を担う協働の一員として普通に存在していたと聞く。このように農村社会では障害のある人達も含め人々は一体化していた。今では、農業は衰退し、以前の農業社会とは状態を異にするが、障害のある人も、そうでない人も再び一体化する共生社会が農業を通して可能になりつつあることを実感している。

障がい者が農業に関り易くなった以前とは異なる農業の状況もある。それ



は高齢化により農業指導ができる人材が増えたこと、A-1（人工知能）やロボットなど技術が進化し、農作業自体が簡易化されたこと、また流通においても収穫物をそのまま販売するのではなく、障がい者施設の就労支援において加工し、一年を通して販売することや、レストランなどを行う施設も増え、六次産業化が進んだことである。その分野において地域の活性化など障がい者の活躍範囲が広がった。

青葉仁会が取り組む「農福連携」は、その地域にこれ迄にない新たな農業を興す事や、企業と手を組んで大規模な水耕栽培による工場生産を行う事とは思ってはいない。広い関東平野のような所ではないが知らず、紅葉と畑の山の端が美しいと言われるような地にあつては、水耕栽培と言う工場生産に集中する事で周辺の田畑が更に衰退し、耕作放棄地や荒廃林が増える可能性もあり、延いては益々の人口減少が起る事が予想される。そうなれば青葉仁会は利用者の人達を巻き込んで、地域

の衰退の中で孤立するだろう。それでは福祉の逆行化にしか過ぎない。これまで地域の人達が築いてきた農業や文化を維持する上で、人的な隙間が生じているところを補ってゆかねばならない。また、支援により障害の多様性を生かした六次産業化での取り組みを通して地域外の人達にも魅力の発信を行い、障がい者と言われる人たちが、地域を超えて社会の活性化につながる原動力になり、彼らもまた幸せになればと願っている。

その他にも、地域の文化財とも言える旧家の維持を施設の利用者の方々が行っている。そこは都会の子供達の農山村体験の場として毎年活用されている。障害のある人達と共に農業に関わっていくことで、将来の農業や福祉人材へ道をつなげ、持続可能な地域として成り立っていかねばとの目標をもってこの「農福連携」に取り組んでいるところである。



ART
&
CAFÉ

すいせんづき

「水仙月」

オープン

今秋11月3日に、日笠ワークス2F

に「ART&CAFÉ水仙月」をオープン致しました。店名である水仙月は宮沢賢治の作品『水仙月の四日（すいせんづきのよっか）』から名付けました。水仙には「希望」という意味があり、これからここで活躍する利用者さんにとっても職員にとってもたくさんの希望が持てる職場にしたい、という私の強い願いを込めました。カフェのコンセプトとして、地域に根ざした場にしていきたいという思いもあり、グラントオープンに先駆け、主に地元の皆様へのお披露目会を行いました。折しも台風22号が接近していた悪天候の中でスタートであったにも関わらず、新しい事業所のオープンを心待ちにして頂いていた多くの方々に来店いただき、皆さまと歓談させて頂く中で改めて当

事業所への関心の高さを
実感致しました。

さて、「地域に開かれた
施設」という言葉が当た

り前に言われる昨今、開かれた施設と
いうだけではなく「共に歩んでゆける」

そんなお店でありたいと考え、当店の
メニューには地元田原の特産である大
和茶や、耕作放棄地を活用して当法人
の農作業班が育てたさつま芋スイーツ
とドリンクを用意しております。この

事を通じて自然と地元の方々とのコミュ
ニケーションをとる機会が以前より増
え、相互理解・親交が深まってきていま
す。お客様が求めているのはその土地
でしか味わえない食材や文化なのでは
ないでしょうか。地の利を生かすという
ことはすなわち、その土地の良さや魅
力をアピールすることであり、これが



日笠ワークス 所長

本田 満広

社会福祉法人の使命の一つにある「地
域貢献」に繋がるものだと考えていま
す。

また、障害のある方々の就労の場と
して既に数名の利用者さんに接客サー
ビス等に果敢に挑戦してもらっていま
す。これまでの和紙作りから新たに接
客業というお客様と直接関わる仕事に
変わり、人と関わる中で人は自らが成長・変化するという事を私も実感致し
ました。ある利用者さんは、自分の仕
事に誇りが持てるようになり、これま

で一緒に作業をする仲間と同じ時間にご飯が食べられなかったのが今では食べられように、散歩にも出かけようとなれなかったのが今は欠かさず皆と行かれるようになりました。そこで、改めて青葉仁会が大切にしてきた仕事ということが如何に重要なことなのかということを私は実感しています。働くということとは傍（はた）を楽にすることであり、必要とされることでもあり、そう思うと人は自然とそれに応えようと仕事の場以外でも共に生きたい、という思いに駆られるのだと感じます。

また私達は、店内の備品や什器にも出来るだけ青葉仁会で作られている製品を使っています。特に、日笠ワークス1Fでは紙漉きを行っている為、店内



特集 2 日笠ワークス2F 水仙月オープン

ではロールカーテン、のれん、コースターやランチョンマット等多くの手漉き和紙アイテムを使用しています。その紙漉きの材料に關しても地元のものを使っています。また、里山保全で悩む近隣の山々に分け入り、整備を兼ねて竹を伐採し紙の原料にしています。

さらに地元の特産の大和茶を漉き込んだ紙など地域とのコラボ商品を開発し、ここ田原の魅力を発信しています。その他にも法人の他事業所で作った木製テーブルやイス、陶器、カトラリーなど、実際に店舗でお客様に使って頂きながら、青葉仁会の取り組みを知っていただける場所となるよう工夫しています。ゆくゆくは地元の作家さんの作品も置かせて頂きたいですし、大きな夢ですが、共に新たな作品を産み出してゆくことが出来ればと思っています。そしてこれらもまた青葉仁会の活動を知っていただく機会として、アート・クリエイティブの絵画や造形物等、利用者さんが製作した作品の数々を展示販売しています。この作品展示



においても定期的に変更し、今後は利用者さんの独特な感性で撮った地元の風景や名所の写真、絵画、造形物を展示し、飾るだけではなくそれ事体が地元の良さをPR出来るツールにしてゆければと思います。

これまでお話ししてきたように、「地



域や利用者さんの魅力」をおもてなしの心として、提供しているメニューとして、使っている物として、販売している商品として、そして飾っている作品としてART&CAFÉ水仙月を訪れたお客様に伝え、人と人が繋がり、その輪が広がり、そして優しい気持ちで満たされる、そのきっかけになるカフェにしてゆきたいと考えています。

皆さまのお越しをスタッフ一同お待ち申し上げます！



ART&CAFÉ 水仙月

大和茶とさつまいものカフェ

〒630-2173 奈良市日笠町396-2

近鉄奈良より車で20分

JR奈良・近鉄奈良よりバス1日7本 (下水間行き・北野行き乗車)



TEL.0742-81-0188 FAX.0742-81-1071 営業時間：10:00～17:00 火曜定休



“Being unwanted, unloved, uncared for, forgotten by everybody, I think that is a much greater hunger, a much greater poverty than the person who has nothing to eat.”

パンへの飢えがあるように、人には激しい心の飢えがあります。

誰からも愛されず必要とされない心の痛み、そんな心の飢えがあります。(マザーテレサ)

「暮らす、働く、余暇」 楽しく生きる豊かな人生を目指して



人は一人では生きられないと言います。これは人の助けを受けて生きることでだけではなく、人は自己の存在を自分の思いや行動によって他者から「大切な存在」として認められることを無意識のうちに期待しています。また、社会や人々から認められることを自身の抛り所として自分の思い描く人生を築いていくのではないのでしょうか。その様な人生の過程においては、まさに人生を生きていることそのものが生産活動と言っても過言ではありません。また、その認められることの究極のわたしが愛されることではないかという気がします。認められること、愛されるために行動をおこすのは、生まれながら人に備わった生命活動なのだと思います。

認められる、愛されるは誰しも同じことなのですが、知的障害のある人達に接していると、そのことに對する生き方に特徴があります。認められること、愛されることにとても真剣で、しばしばそのことが直接的に態度に表れます。喜び、時には満たされない悲しみや

寂しさを自然体で受け止め、彼らの人生の全てであるかのように反応を示されます。勿論、働いて得るお金も大切ですが、彼らは金銭的価値より、喜びや楽しみに充たされることを最も大切にしておられる、その姿に人として謙虚で尊いものを感じます。

そんな彼らの思い描く人生を可能にする支援の在り方を常に考えます。「暮らす、働く、余暇」を生涯に渡り支えてゆくことに責任の重さ、そしてまたそれに等しい喜びも感じるところです。しかしその取り組みは簡単ではありません。なぜならその価値やかたちが時代によって常に変化してゆくからです。

これまでの取り組み

社会で普通に活躍する就労の場として始めたカフェレストランも5ヶ所に増えました。平成9年に初めてカントリーカフェ・ハーブクラブを造った頃は、未だ当時の授産施設としてサービス業は存在しませんでした。しかしこの取り組みは利用者の仕事に対する生

き甲斐や成長に変化をもたらし、障がい者の社会就労支援の在り方そのものに変革をもたらしました。また、あおはにの家を建設した当時は個室やユニットケアーの施設は未知の試みで、参考になる施設もガイドブックもありませんでした。個室であることにご家族の方からも「もし部屋で倒れていたら…」など不安の声が出されました。折衷案として扉のドアにガラスを入れ、下半分に内部が見えないすりガラスを、上半分に様子を確認できる透明ガラスにしておいたのも懐かしい思い出です。

現在の取り組み

① 入所施設「あおはにの家」

あおはにの家も、設立25年を過ぎ利用者の今後の高齢化や重度化状況に合わせ、改築しておかなければなりません。そこで、これまで個室と2人部屋が約半数に分かれていたところを、設立25周年を機に「全室個室化」を目指し新棟を建て増しするとともに、介護施設基準に適合できるようにしました。

また、利用者の希望や生活の状況に合わせた居室の多目的な利用も可能にすることから、内8室については隣接する部屋との間に扉をつけ、2室連用の生活スタイルが可能になるようにし、例えば二人で相談して寝室と居間に分けて使用することも可能になりました。その他にも4室においては重度化にに応じて部屋にトイレ、手洗いを設置することも可能にしました。

② 「満天ひろば」の改築

満天ひろばは、道の駅と同様の機能を持ち利用者が広く地域活動を支えることを目的として設置しています。

したがって青葉仁会の「すこやかネットワーク」における地域拠点となります。現在ここに新たに「石鹼工房」と利用者のいこいの場の建設工事を行っています。ここで生産される石鹼は薬事法の適用をうけ、化粧品を製造できる工房で作られることとなります。将来的には石鹼だけではない化粧品も生産できればと考えています。この工房は、美しさを求める利用者の憧れの就労の場になることが期待されています。

③ グループホームの改築と増築

奈良市水間町のバス停前にある「にこやかホーム」を利用者の生活に合わせたより使いやすいホームにするため全面的に建て替え工事を行っています。コンセプトは自然豊かな地域に合わせたやさしさのある別荘風の建物で、生活の豊かさとしやすさを提供できればと考えています。こちらは平成30年3月完成予定です。現在の利用者は4名ですが、完成後は定員が7名になるため新たに3名の方々の利用が可能になります。その他にも「ピュアホーム」の



増築も検討しています。こちらでも4名の増室となります。

④「ハーブクラブ」の改装

築20年となるハーブクラブの厨房を含むフロアー部分の改装を行います。集う人みんなが楽しくなるようなコンセプトを企画しているところです。工事予定はお客様の少なくなる2月を予定しています。

⑤「デリカテッセンイーハート」の増設

規模が大きくなるにつれ現在の事業所も手狭になってきました。そこで、地域の要望に依って事業所横のバスロータリー商店街の空き店舗を焼き立てベーカリー店舗に改装、利用者の方々の新たな地域就労と活動の場に整備します。この工事も3月までには終了予定です。パンの製造を希望される利用者の方々、お待ちしております。

今後の予定

右記⑤迄の事業については、この25周年記念年までに整備を終える計画で

あったものです。今後の事業計画は平成30年度以降の事業として理事会において決定されることとなります。

今後については、グループホームの整備が中心になると考えています。新たな施策として重度障がい者対応(区分4以上、定員20名迄想定)の整備が厚労省において検討されています。今年度3月までには全容が具体的に示されるのではと予測しています。この施策が示されれば新たな施策に対応したグループホームを「すこやかネットワーク」と「いきいきネットワーク」のそれぞれに設置する必要があるでしょう。

また、「いきいきネットワーク」の奈



良市針町からは、榛原、天理方面や名阪バスなどの交通ルートが整備されていることや青葉仁会の24時間の支援対応が可能なことから、この付近に多様なグループホームの集合エリアにできないか、とも考慮しているところです。

新たな計画については、平成30年に厚生労働省より「障害福祉サービス等報酬改定」が実施されるため、その内容を先ず検討する必要があります。しかし現在進行している整備状況においてもグループホームの拡大整備(一棟分)や短期入所棟の増設など安心して豊かに暮らす場の整備や、化粧石鹸など生き甲斐につながる社会参加の場整備が進行中です。冒頭にありますように、障害のある方々が生き甲斐をもって「暮らす、働く、余暇」を楽しみ、自らの思い描く人生を歩める様に青葉仁会を取り組んでゆきます。障がい者としての誇りが満たされること、彼らの望むもの、その時代に合うものの整備を支援組織として進めてゆくところです。

ネーミングのお話

青葉仁会には少し変わった名前がつけられた活動場所、事業所、店舗があります。

お気づきの方もおられるかもしれませんが、この名称の幾つかは宮沢賢治の作品がヒントとなっています。「世界がぜんたい幸福にならない」うちは個人の幸福はあり得ない」という彼の言葉にもあるように、困っている人、苦しんでいる人々が幸せに、楽しく暮らしていくという想いから、彼は貧困問題、環境問題、共生社会をテーマに数々の作品を残しています。法人の理念とする『幸福の平等』にあるように、障がいがあってもなくても、皆が共生する事により幸せを分かち合うところに真の幸福があるという、そんな「賢治ワールド」を青葉仁会は現実の姿に変えて行けたらと思います。『雨ニモマケズ』にあるような、そんな人であり、組織になってゆきたいという願いが込められています。



宮沢賢治の作品から付けられている名称

● 銀河ステーション

入所施設・萌あおはにの多目的ホール

代表作の一つ『銀河鉄道の夜』に登場する駅名。少年ジヨバンニが、友人カムパネルラと銀河鉄道の旅をする物語。

● イーハトーヴ Ihatoru・Sora

帝塚山のレストラン&デリカテッセン

イーハトーヴとは、宮沢賢治の造語で彼の理想郷ノユートピアを表す語。

● ポラーノ広場

富雄の事業所

博物館に勤務するキュースト、農民の子ファゼーロ、羊飼ミール達、ポラーノの広場」という伝説の場所を求め奮闘する話。

● シグナルとシグナレス

ポラーノ広場にある日中・就労活動の場

東北本線の信号機シグナルと釜石線の信号機シグナレスの恋愛話『シグナルとシグナレス』。信号機であるシグナルとシグナレスが擬人化されたユーモアのある短編童話。

● クラムボン

富雄のカフェ・ベーカーリー

賢治の短編童話『やまなし』で蟹の兄弟の会話に登場するのだが、クラムボンが何を意味するのかわからない。

● どんぐり山猫工房

木工房

『注文の多い料理店』に収録されている童話。少年のもとに、山猫から間違いだらけで下手な手紙が届くところから始まる物語。

● ポラン

相談支援センター

童話『ポランの広場』より。キュステとファゼロが歌合戦を繰り広げた広場の名前。

● 水仙月

日笠ワークス2Fのカフェ

『水仙月の四日』に雪山で雪童子と子供が出会い、雪童子から子供の命を守る話。



2

0

1

7

Event News

6月 June

- グリーンフェスタ
- バスツアー (神戸市立王子動物園)



7月 July

- いきいき&すこやか夏祭り
- 自由旅行 ● 映画鑑賞会



8月 August

- ブルーベリー祭 ● 宿泊訓練
- バスツアー ● 沖縄フェア



9月 September

- BBQナイト ● オータムレクリエーション
- アート展 ● ジョギングクラブ



10月 October

- 杣ノ川秋祭り ● チェロ音楽会
- バスツアー (嵐山・トロロコ電車)



11月 November

- 焼き芋大会 ● 自由旅行
- 「水仙月」オープン

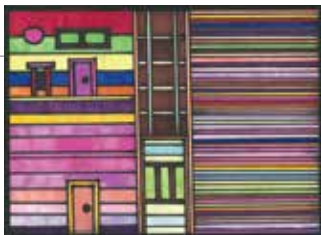


12月 December

- クリスマス会 ● 映画鑑賞会



「あおはにの家」の新棟
「満天ひろば石鯰工房」完成(春)



表紙のイラスト

「ビル」

キタグチ タクミ

作者：北口拓巳さん

奈良県住在

ポラーノ広場

よく家族でお出かけをされる北口さん。乗り物に乗りながら建物や看板を見ることが大好きで、作品にもその風景をたくさん描かれています。自宅では旅行先で撮った写真を見ながら風景画を描き、ポラーノ広場では何も見ずにストライプ、ハート、雲などの模様を多く取り入れた空想画を描かれる事が多い。ご本人が描かれるデザインと色彩のセンスは、どこからこんな発想がうまれてくるのかと感心する。

編集後記

年の瀬も押し迫ってまいりました。この時期になるといつも、一年の内でやり残している事が気になりだすのは私だけでしょうか。さて、同じくこの時期には「今年の〇〇」といった一年を代表する様々なものが発表されます。その一つ「今年の一皿」が先日発表されました。今年は【鶏むね肉料理】。高齢化や健康志向の高まりを受けて高タンパクで低カロリーなことが好まれたそうです。また、同賞には【日本茶スイーツ】が「日本の文化として日本茶が今後一層国民の暮らしに取り入れられ、文化として振興することを期待する」という理由でノミネートされていました。今秋オープンしたART&CAFÉ水仙月(P5～8)にて、地元特産の大和茶を使った「大和茶パフェ」が人気を博していた事からも納得です。健康、安心、安全、文化。このどれもこれから青葉仁会が目指し、取り組んで行かねばならない課題であることを認識する「今年の一皿」となりました。

来る年の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

榊原 安美



社会福祉法人
青葉仁会

〒630-2152 奈良市杣ノ川町50番地の1
TEL.0742-81-0420
FAX0742-81-0804
info@aohani.com
http://www.aohani.org

すこやかネットワーク

あおはにの家・萌あおはに

〒630-2152 奈良市杣ノ川町50番地の1
TEL.0742-81-0824 FAX.0742-81-0804

水間ワークス

〒630-2151 奈良市水間町3020-3
TEL.0742-81-0864 FAX.0742-81-0829

日笠ワークス

〒630-2173 奈良市日笠町396-2
TEL・FAX.0742-81-1071

満天ひろば

〒630-2151 奈良市水間町3031
TEL.0742-81-1310 FAX.0742-81-1311

どんぐり山猫工房

〒632-0113 奈良市都祁馬場町 716
TEL・FAX 0743-89-1808

いきいきネットワーク

デリカテッセンイーハートヴ

〒630-0064 奈良市帝塚山南4丁目11-14
TEL.0742-95-7227 FAX.0742-95-7228

ポラーノ広場

〒631-0061 奈良市三碓町2146-2
TEL.0742-45-8700 FAX.0742-45-8701

生駒事業所

〒630-0243 生駒市俣口町2088
TEL.0743-73-8880 FAX.0743-73-5350

地域支援部

〒631-0064 奈良市帝塚山南4丁目11-10
TEL.0742-81-8877 FAX.0742-81-8660



社会福祉法人 青葉仁会

